

# 県産素材で健康法探る

三重大(津市)とロート製薬(大阪市)は、江戸時代に三重県などで盛んだった、病気の治療に使う薬物を研究する「本草学」の考え方を、現代技術によって新たな健康素材開発に生かす共同研究を進め

ている。実験用小型魚のゼブラフィッシュを活用。健康寿命を延ばす効果がある県内独自の新たな素材も見つけたし、健康学として確立させ地域活性化に貢献することを目指す。

(鈴木里奈)

## 三重大 ロート製薬と共同研究

三重県は江戸時代の本草学者・野呂元丈の出身地でもあり、本草学が盛んに研究された。県内で古くから健康に良いと言われる素材はシャクヤクなど約百種あるといい、大学の研究ノウハウと製薬会社の開発技術を組み合わせ、そうした素材が何にどう効くか解析し、新たな地元素材として活用したいと考えた。

大量に保有する三ヶ程度のゼブラフィッシュを使用。一週間に一度、二百〜三百の卵を産み、一週間ほどで肥満の状態にできるため、マウスより多いサンプル数が確保でき、早く実験効果を確認できるメリットがある。

三重大はゼブラフィッシュによる研究実績が豊富。ゼブラフィッシュに薬草を食わせて肥満状態になるように育てながら、通常の個体と比べ、薬草で肥満の症状を予防できるかなどを観察するという。

「人生百年時代」を生き抜くために、そうした県産の健康食材をサプリメント(健康増進食品)などとして商品化することを想定する。

県は全国で肥満度が最も低い県とされ、二〇一五年の厚生労働省の調査によると、健康寿命も全国で女性八位、男性十位と長寿県。そうした特色を支える豊富な薬草などの素材が、健康寿命にどう効果があるか研究し、新しい健康法確立にもつなげたい考えだ。

研究には、三重大が実験用に



① 正常時のゼブラフィッシュ  
② 肥満状態のゼブラフィッシュ

いずれも三重大提供

二〇年に多気町にオープンする「アクアイグニス多気」を本草学の発信拠点とし、薬草を使った温泉や、健康商品などを提供することも予定。時期は未定だが、薬草を使った料理のメニュー化なども目指す。

両者は一月に共同研究実施を正式に決め、三重大の西村訓弘地域戦略センター長と島田康人医学博士、ロート製薬担当者による研究チームを組織。島田博士は「現代での本草学の復刻であり、それを通じた地域活性化への貢献を目指したい。科学的に世界の標準に達するレベルになるように研究し、論文も執筆したい」と話す。